

## [055] 文獻探究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1909519>

---

出版情報 : 文獻探究. 55, 2017-03-31. 文獻探究の会  
バージョン :  
権利関係 :

『文献探究』五十五号をお届けいたします。今号は六本の論考が揃いました。菱岡稿は、前号より引き続き、小津久足の紀行文『難波日記』を翻刻し、久足の文学的営為を伝えるもの。門屋稿は、長崎県佐世保市宇久町方言の可能形式について、その使い分けを考察するもの。その他、口絵にて掲載した『着飾之由来』および『天保雜記』所収の「万国渡来怪物」について翻刻と解題を付す村上稿、西村遠里「居行子」の解題・翻刻を載せる吉田稿、中村三近子の『児戯笑談』について解題・翻刻を施す脇山稿、『さころも』を翻刻する閻・張稿を掲載しています。

\*

今号の口絵は、本学附属図書館雅俗文庫に所蔵される『着飾之由来』の紹介です。本書は、天保期の奢侈にふける人々を揶揄したものであり、見返しには「着飾」と称される「けだもの」が描かれています。なかなかタチが悪そうです……。口絵にふさわしい資料がございましたら、解説を添えて是非編集部までお寄せ下さい。

\*

今号には、本学大学院の修了生で、現在、特別支援学校の教員として活躍される方からもご寄稿がありました。本誌が研究者・教育者などの身分を問わず、ひろく人と人をつなぐ「知的交流の場」として、その役割を果たしていることに、改めて気づかされました。こうしたあり方は、今後も永く続けていきたいものです。

\*

前号に引き続き、博士後期課程の吉田宰が代表を務めております。今号に関する編集・会計事務には、吉田の他、博士後期課程の藤田優子、修士課程の李静怡、高木一希、三國恵里が当たりました。次号（五十六号）の投稿締切は来年二月末日、三月刊行の予定です。多数のご寄稿をお待ち申し上げます。

（吉田記）